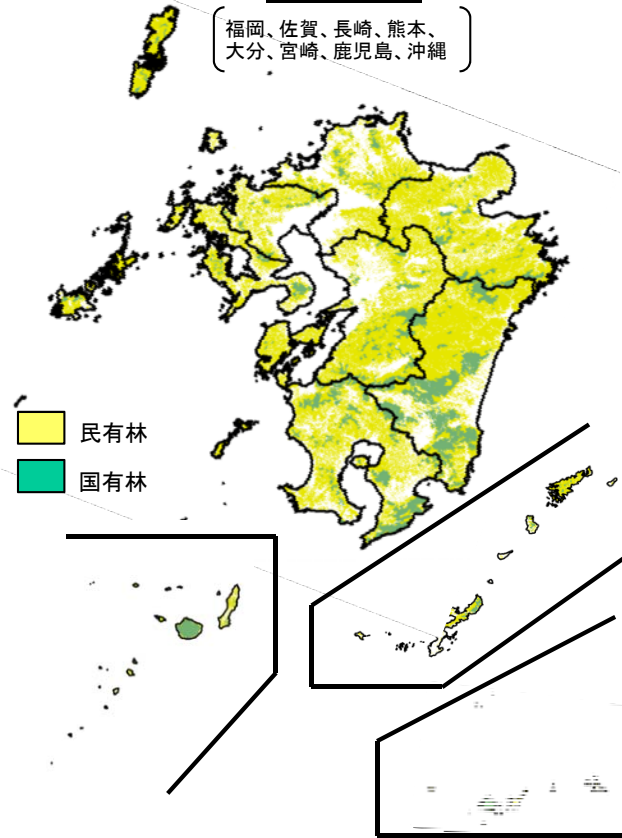


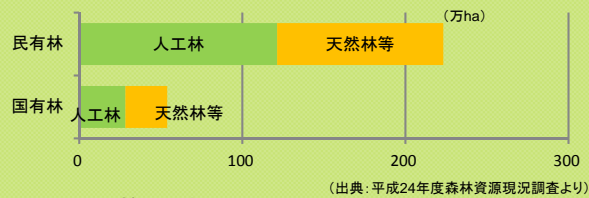
九州森林管理局

管内図

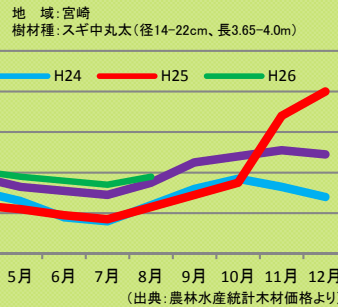
福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄



○ 森林資源の状況(森林面積)



○ 木材価格の状況



1 森林・林業・木材産業における一般動向

(1) 木材需要の動向

- 木質バイオマス発電所は、既に稼働中の大分県の2件に加え、現在9件が着工中。また、国産材の2×4住宅用部材供給のため、さつまファインウッド（鹿児島県霧島市）が平成27年1月稼働予定。
- ハウステンボス（長崎県佐世保市）でCLT工法によるホテル整備の構想。また、本年3月に完成した綾中学校（宮崎県綾町）では、地元材を活用した既存の住宅用部材を大規模木造建築に利用する新たな構造を採用。



【綾中学校(内装)】

(2) 林業と山村地域を巡る動向

- 九州次世代林業特別部会（事務局：九経連）が長崎県対馬からの製品輸出等も視野に交流会を実施。鹿児島県志布志港からの木材輸出が11億円（前年同月比約2.6倍）となるほか、木材市場で韓国等の業者が入札するなど強い関心。
- 九州各県の森林総合監理士（フォレスター）等約200名が参加する、『九州フォレスター等連絡協議会』を8月に立ち上げ、市町村森林整備計画の作成支援等に向け、県、国有林のフォレスター等が連携して取り組む体制を確立。



【志布志港】

2 「攻めの農林水産業」に関する国有林野事業の取組

(1) 需要拡大・安定供給への貢献

- バイオマス発電向けに、本年度を通じて3万m³強の原料材をシステム販売で供給予定。また、国内2例目となるCLTのJAS認定を取得した山佐木材（鹿児島県肝付町）に、CLTの試験生産等に向けた木材を供給。
- 本格化する主伐・再造林への対応のため、主伐と再造林の一貫作業を推進。また、『コンテナ苗供給調整会議』を7月に実施。コンテナ苗の需要動向や国有林の将来事業見通しを県や苗木業者等に示すなどコンテナ苗生産拡大を推進。



【コンテナ苗】

(2) 美しく伝統ある農山漁村の継承への貢献

- シカ被害防止のため、九州農政局と連携し、主に農業分野の取組を行っていた熊本、大分、宮崎の県境地域において、誘引狙撃等の技術による新たな対策をモデル的に実施する他、町村等と森林管理署が捕獲推進のため協定を締結。
- 世界自然遺産に登録されている屋久島において、外来種であるアブラギリの駆除を進めるため、民有林・国有林を通じた駆除を公益的機能維持増進協定に基づき、今年度からモデル的に国直轄で実施。



【誘引されたシカ】